適用工場の好事例集

「第１回」

架けばらし会社及び中小のリース・レンタル会社による 適用工場の好事例集

―管理レベルの向上に努力されている会社のトップの方の意識・姿勢など―

現在、経年仮設機材管理基準適用工場（以下「適用工場」という。）の数が650を超える状況となっており、その管理レベルに差が生じてきているという指摘があります。

このような状況を踏まえ、架けばらし会社や中小のリース・レンタル会社で、管理レベルの向上に努力されている会社のトップの方に対し、その意識・姿勢などについてお伺いしました。

株式会社ユウケイ工業　代表取締役

梅田 賢一　氏

1　社長の機材センターの運営管理に関する考え方（適用工場になり、レベルを向上させている思いなど。）

機材センターの本質は、お客様に品質の良い資材を安く提供することが我々の責務と考えております。

それには「働きやすい綺麗な機材センター」が必須となります。

その取組みとして、先ずは機材センターの作業員のモチベーションと作業効率を向上させるべく気持ちよく仕事のできる綺麗な環境作りから始めました。

現在までに行ったことは、大きく分けると７つです。

・安全動線・横断歩道や区画ラインの整備
・資材運搬車輌動線の整備
・地面を砂利からアスファルト舗装に変更
・部材をサイズ毎の色分け塗装
・照明器具や音楽の導入
・出退勤時に安全な駐車場の整備
・受動喫煙防止対策の整備

今後は、更なる向上を目指し、BIM導入や弊社独自のオリジナル資材管理クラウドシステムを構築させて管理上のミスやロスを減らし、働きやすさと生産性を両立して向上できるように着実に進めております。

お客様に品質の良い資材を早く安くご提供できることを目指して、業務に邁進して参りたいと考えております。

2　社員とのコミュニケーションの方法など（社員をやる気にさせた方法など）

当たり前なのかもしれませんが、私たち経営陣だけで決定した作業手順フロー等で社員に作業させるのではなく、社員の意見を丁寧に聞いた上で会社の成長性が見込めるものは採用してやってみる、あとはPDCAを継続して回すことが、レベルアップするのに重要だと思っております。

PDCAを継続して回していくプロセスで社員と関わり、コミュニケーションも図れるので、社員の技術も社員との信頼関係も同時に向上できるので一石二鳥です。

近年、大成功だと継続していることは、社員が毎日着用するユニホームの種類、デザイン等を社員と一緒に考え、決定していることです。

格好が良いと思う好みのユニホームを着ることで、モチベーションアップと共に統一感も期待できます。

また、お客様の言葉は社員に響くと考え、お客様にお願いして自社の機材センターの見学（視察）も定期的に行っており、お客様（現場）の声と機材センターの社員との関わり作りを心掛けております。

以前はコミュニケーションの代表格であった社員旅行や飲み会、そして対面会議までが躊躇されるコロナ禍で事業を成功させるために必要な社員との信頼関係が重要と考えています。そのため、経営陣の創意工夫や想いが必須だと思います。

社内ミーティング風景

3　苦労した点

現在に至るまでに機材センターの運用に苦労したと思ったことは、記憶にありません。

以前、弊社は資材を所有しない現場作業だけを行う手間請負を主とする企業でした。

そのため、材工請負の受注が難しく大変苦労しました。その苦労を知っているからこそ機材センターを一から創って運用していくことが楽しく感じます。

それが創業の精神でしょうか。目的が明確だったことが大きいですね。部下は、上司の背中を見ているので楽しそうに仕事していれば部下もそうなります。

話を戻して、苦労ではありませんが、機材センターの運用は全てが初めてづくしで正解が分からないことがたくさんありましたが、現場で培った知識と創意工夫を様々なシーンで発揮し、時には失敗を繰り返し、現在まで至ります。

今後も課題は山積みですが、苦労と思わず、目的を明確にして、どのような方向性で行えば楽しく仕事ができるのかの思考力で課題を乗り越えていきたいと思います。

最後になりますが、全産業の課題である［安全］は、引き続き最優先で行って参ります。

場内の様子

場内の様子

場内の様子